

回				
覧				

機構に情報公開を要求！

原子力機構の改革については、文部科学省に設置された「日本原子力研究開発機構改革本部」での議論が進んでおり、7月29日には第3回となる会合が開催されました。新聞等では、「もんじゅ管理の民間委託案を断念」などと、もんじゅの運転管理に現在以上に民間を投入するような改革が議論されているようです。

労組は、7月26日、機構に対して、機構の改革推進本部における活動を公開するよう、要求書を提出しました。当事者である機構の中でどのような議論がされているのか、早急な情報公開を求めます。

65原研労中1-7号
2013年7月26日

日本原子力研究開発機構
理事長 松浦 祥次郎 殿

日本原子力研究開発機構労働組合
中央執行委員長 花島 進

「原子力機構改革推進本部」における議論、及び作業の進展にかかる職員への情報公開について

(要求書)

文部科学省に設置された「日本原子力研究開発機構改革本部」は6月7日に第1回会合、7月4日に第2回会合を開催し、8月上旬までに中間とりまとめを予定している。文部科学省のホームページには会議での配布資料及び議事要旨が公開されており、議論は「安全文化」に留まらず、「組織再編」にも意見が及んでいる。新聞等では、「核融合など一部の研究を同機構の業務から切

り離し、他の研究機関に移管する方針を示した」等と報道されており、原子力機構が解体分離されるかのような印象を与えている。

一方、改革本部と連携しながら機構の経営、組織及び運営の改革を推進する目的で機構内に設置された「原子力機構改革推進本部」の活動は一切公開されておらず、機構職員はいたずらに不安を募らせている。

原子力機構がどのように改革されるかは、単に我々の労働条件にかかわるだけでなく、これからの原子力の在り方、仕事の在り方に係る問題である。しかも、東京電力福島第一発電所の事故を経て、我が国の原子力はある意味での岐路にあり、原子力の将来を原子力関係者のすべてが考えるべき時である。そのような中での機構改革であるから、なおさら担当者だけの議論で計画を作るべきではなく、作業グループの議論を紹介しつつ、広く職員の意見を求めながら改革計画を検討すべきと考える。

改革の透明性の観点からも議論の進展を機構のイントラ、又はホームページを介して機構職員に公開することを要求する。

以上

本当に必要な改革はなにか？

「もんじゅ」の点検不備、J-PARCの放射能漏れ・被ばく事故から、原子力機構の改革論議が、急に始まりました。

原子力機構の在り方を考えるということは、大切なことでしょう。とりわけ、福島第一原子力発電所のとんでもない事故があったのですから、我が国唯一の総合原子力研究開発機関である原子力機構が、これまでどのような役割を果たしてきたのかをよく見る必要があります。「福島第一のような事故を起こさないために□□□の働きをしていたが、□□□のために事故を防げなかった」とか、「本来、□□□でなければならないのに、□□□だったため、安全神話の蔓延に寄与してしまった」などなどの評価や反省です。また、「原子力機構に□□□の成果があったが、生かされなかった」ということもあるでしょう。

今ある原子力発電所を、動かす/動かさないのいずれを選ぶにせよ、将来にわたり、エネルギー源として原子力を使うことを真面目に考えるなら、そういった考察が必要です。それは原子力機構だけのことではなく、原子力界全体にいえることでもあります。

しかし、今進んでいる論議の中では、そのような評価や反省、批判がほとんど見えません。それで本当に原子力をやっていただけるのでしょうか、原子力機構の将来があるのでしょうか？ とても良い方向に向かうようには見えません。

振り返ると、昨年から強行実施され、ほとんどの職員に大きな経済的打撃を与えた給与削減の特例措置では、機構は労働組合のいろいろな緩和要求を一切受け入れず、「目立ちたくない」、「今は蝸壺で我慢」と言って、自主性のある態度をとりませんでした。福島第一に関連づけた批判に波及することを恐れていたことです。「福島対応」にも邁進しました。しかし、「職員の処遇」では目立たないようにしたのに、「もんじゅ」と J-PARC で目立ってしまい、今に至っています。

理事長も代わりました。良い機会です。組織のあれこれを考える前に、「本当に必要なことは何か」を考え直す時ではないでしょうか。

アンケート開始！

「あゆみ速報 65-02」でお知らせしたように、研究問題対策部ではアンケートの準備を進めてきましたが、ようやく完成しましたので、インターネット上でアンケートを開始しました。このアンケートを通じて、原子力にかかる研究開発や原子力機構が果たすべき業務、および我々機構職員の処遇について、皆様のご意見を伺いたいと考えています。今回のアンケートは初の試みとして Web システムを用いて実施します。パソコンの Web ブラウザで次の URL を入力するとアンケートページが表示されます。

<https://genkenrouso.net/drupal/enquete2013summer>

或いは、原研労組のホームページ「<http://wing.zero.ad.jp/genkenrouso/>」にある「研対ニュース」のページにリンク「原研労組研対部アンケートページ」がありますので、「原研労組」で検索して、原研労組のホームページを経由してもアンケートページにたどり着けます。

アンケートは 8 月末まで実施します。自宅にインターネット環境がない場合には、原研労組の組合事務所に、アンケート回答用のパソコンを用意していますので、お昼休みや退勤後の時間にご利用ください。組合事務所が開いている夕方 6 時まで利用することができます。

我々が抱える多くの問題について、皆様のお考えをお寄せください。アンケートの回答は SSL (Secure Sockets Layer) 技術を用いて暗号化した後に送信

されますので、第三者にその情報が盗み見られる心配はありません。組合員をはじめ、一般職員の方々、並びに O B の方々の積極的な回答をお願いします。

中央委員会が開催されました

第 457 回中央委員会をさる 7 月 24 日に開催し、今期の研究問題対策部書記局長、選挙管理委員、及び外部団体役員について承認されました。(敬称略)

研究問題対策部書記局長：橋本慎太郎、半澤有希子、古高和禎、平出哲也、小浦寛之、浅井雅人

選挙管理委員：東海／平出哲也、柴田光、中原由紀夫、松田誠
大洗／川上政子、馬籠博克
那珂／佐藤稔、椛澤稔
高崎／千葉敦也

外部団体役員：特法連副議長／花島進
特法連幹事／小松崎賢治
科労協役員／横尾健司、橋本慎太郎
科労協幹事／小松崎賢治、津村貴史

一年間、よろしく申し上げます。

給与の大幅削減特例措置を直ちにやめろ !!!